

2019年度は、本来薬剤師定数7名のところ、薬剤師3名欠員(1名は育休)の非常に厳しい体制で、開院以来の緊急事態と言っても過言ではないスタートであった。そのため薬局事務を1名増員し、3名体制として、薬剤師支援範囲を拡充しながら質を落とさないよう薬局運営を行った。その中でも、土日・祝日勤務(365日勤務)を継続できたことは、医薬品の適正使用に大きく貢献できたものとする。振り返ると、身体的・精神的負担は非常に大きかったが、他部署からの「協働」もあり、当院のチームワークの良さをあらためて感じる事ができた1年であった。

**[薬局理念]**

患者さんを第一に考えた、安心・安全で良質な薬物療法の提供に努めます。

**[基本方針]**

- ・医療チームの一員として他職種と連携をはかり、医薬品の適正使用を推進します。
- ・向上心を持って自己研鑽に励み、より専門性の高い薬剤師を目指します。
- ・教育・研修を推進し、人として、医療人として暖かみのあるスタッフ育成に努めます。

**2019年度の主な活動**

**1. 人材育成(特に事務スタッフ)**

薬剤師の業務量が増える中、事務スタッフに移管できる業務を洗い出し、OJTによる指導を行いながら、薬局内にとどまらず病棟との連携にも関与できるよう取り組んだ。日常業務を遂行しながらの人材育成のため、チームワークで事務スタッフの育成に取り組んだ。若手薬剤師の育成についても、限られた人数のため指導に十分な時間がかけられない中、「やらせてみる」「経験させる」ことで、日々の成長に繋がった。多忙な中、いろいろ悩み・考えることも多く非常に苦労したが、その分、薬剤師・事務スタッフともにより成長できた1年であった。

**2. 外来対応**

外来調剤は2019年度も薬局の中心業務であった。ただ、この少人数体制のため、待ち時間が開院以来一番長くなってしまった。そのため、患者さんへの対応をより丁寧に行うことを心がけ満足度が落ちないように努めた。また、お薬手帳の重要性を十分認識して頂き積極的利用を推進。薬局窓口での服薬指導内容を電子カルテに記録することで継続的な評価を行い、アドヒアランスの向上にも努めた。その結果として患者さんの満足度を何とか維持することができ、医薬品の適正使用にも貢献することができた。また、患者さんのニーズに可能な限り応えるよう取り組み、ジェネリック医薬品への切り替えも積極的に行った。一包化調剤や残薬調整についても非常に手間のかかる業務ではあるが、断ること無く業務遂行し、服薬コンプライアンスの向上、医療資源の有効活用および患者さんの負担軽減にも大いに貢献できたものとする。

	2019年度	2018年度	2017年度
一包化調剤(外来)(件)	2,208	2,169	2,293

**3. 病棟業務**

2019年度は薬剤師不足のため、これまで継続してきた「病

棟薬剤業務実施加算」を体制が整うまで一度取り下げることとした。そのような状況でも看護師等の支援を得ながら、協働で病棟業務活動は継続することができた。ポリファーマシーの改善となる「薬剤総合調整加算」もわずかではあるが算定継続し、不要な薬剤の削減に努めた。土日・祝日の勤務も継続し、毎日薬剤師が勤務していることで、医師、看護師へのサポートをはじめ、リスク管理や医薬品の適正使用にも貢献できたものとする。また、持ち込み薬(持参薬)が非常に多い中でタイムリーな鑑別報告書作成を遂行。下半期には新しいシステムを導入したことで、鑑別報告書作成から持参薬オーダへの連携が可能となり、医師の負担軽減や持参薬の有効活用にも貢献できたものとする。

	2019年度	2018年度	2017年度
薬剤鑑別(件)	995	1,041	1,186

**4. 抗がん剤および高カロリー輸液の無菌調製**

抗がん剤の無菌調製については、件数は前年度より少なくなってきたが、1年を通して入院・外来を問わず、全ての抗がん剤の無菌調製を行うことができた。当日の急なオーダに対しても臨機応変に対応し、特に医師の業務負担軽減(抗がん剤オーダサポート、前投与薬チェック、副作用予防薬処方支援など)に大いに貢献できたものとする。2019年度は、薬局体制の問題もあり、8月からクリーン・ベンチを利用した高カロリー輸液の無菌調製には寄与できなかった。次年度は再開できるように体制を再構築していく。

	2019年度	2018年度	2017年度
無菌調整(件)			
抗がん剤	135	144	175
高カロリー輸液	194	368	187

**5. 自己啓発**

2019年度も毎週1回、業務開始前に医薬品に関する勉強会・研修会を継続開催し、日々の研鑽とスキルアップに努めた。

**6. 医薬品在庫管理および情報提供**

後発医薬品への切替えを推進し、年度末には「後発医薬品使用割合84.3%」を達成。また、高額医薬品の適正管理や期限切れ医薬品の削減、包括病棟におけるコスト管理など、経営面に貢献すべく取り組んだ。医薬品情報データベースにはDIニュースをはじめ、看護師向け情報、安全性情報、疾患の基礎知識、研修会案内などを掲載し、情報の共有化・一元化に努めるとともに、いつでも、どこからでも確認できるよう改訂・更新を随時行った。

	2019年度末	2018年度末	2018年4月
後発医薬品使用割合(%)	84.3	74.9	54.8

**今後の課題と展望**

2020年度は、新人薬剤師2名を確保することができた。新しい薬局体制で引き続き「協働」「業務効率化」を念頭に、いつでもサポートできる体制づくりを推進していく。また、チームワークで「安心・安全で良質な薬物療法の提供」を継続していく。そして、「病棟薬剤業務実施加算」の再算定をはじめ、旧薬局体制ではチャレンジしたくてもできなかったいろいろな課題にチャレンジし、「着実」にクリアしていきたい。